



2015年5月号

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

～ シェント PTA について ～

名古屋共立病院 バスキュラーアクセス治療センター
統括部長 桜井 寛

【シェントとは？】

血液透析を行うためには、患者さんと透析機器をつなぎ大量の血液をやり取りする道筋が必要であり、そのために設けられた仕掛けをバスキュラーアクセスと言います。一般的には動脈と静脈を外科的に繋ぎ合わせて作製され『シェント』と呼ばれています。

シェントには、流速の早い大量の血液が長期に流れることにより、血管壁に障害が起きたり、また透析時の穿刺・止血の繰り返しにより、シェントが狭くなったりつまったりしてしまいます。

そのような状態のシェントでは透析が出来ませんので、血液透析患者さんにとってシェントは、透析を行うために必要不可欠な命綱と言えるもので、いかにシェントを長持ちさせるかが QOL(生活の質)向上に関わる大切な問題となります。

今回はシェントトラブル(閉塞・狭窄)の時に施行するシェントPTAについて、PTAの方法や意義、また外科的な手術との違いについてお話ししたいと思います。



【シェント PTA とは？】

長期間シェントを使用したことにより、狭くなってしまったシェント部分(狭窄部)を膨らます治療を PTA と言います。